

陳 情 文 書 表

受付番号	第26号
件 名	小野地区 太陽光発電所 建設事業計画の撤回を求める陳情書
受付年月日	平成30年11月26日
陳 情 者	兵庫県三田市 兵庫県三田市 兵庫県三田市 栗棟鈴子 青野台隣保長 ジョレ あさ子 石尾 則明
要 旨	<p>私は、BayWa r. e. Japan 株式会社による太陽光発電所施設の建設予定地、小野地区栗田山の近隣住民です。本書はこの建設工事および設置された太陽光パネルそのものに伴う近隣地域への危険性を指摘し、当該地区における工事計画の撤回を要求するものです。これまで建築主側と話し合いを重ねてきましたが、未だ解決しておらず、この度陳情に至った次第です。</p> <p>まずこの物件の建設予定地は、事業用太陽光発電所の設置に適した地質・地形ではありません。山野の土は土砂災害に弱い真砂土で、また設置予定地の山の麓は勾配が急なため土砂崩れが起きやすく、工事作業に危険が伴い、山沿いの地域に被害が及ぶおそれがあります。（土地利用計画図を見ると、西側は水害、東側は土砂水害が起こる可能性が高い！）このような土地にパネルを3000枚も、低コストで強度に不安が残るパイプ式架台（基礎）で設置しようというのです。</p> <p>また、この土地は南向きではないので、太陽光を受けやすいように山の斜面に対して角度を空け、互いに間隔をとりながらパネルを設置していきます。するとパネルは強風に弱くなり、めくれたり倒れたりする危険性が高まります。</p> <p>さらに、この地域には栗田川があります。パネルの設置に伴って山の木々が伐採され、山肌の保水能力が低下すれば、豪雨時にこの浅くて狭い川はオーバーフローしてしまうと確信します。そもそもこの川の両側は、兵庫県ハザードマップで土砂災害区域に指定されています。3年位前に山の木が一部伐採されたのですが、それ以降は強い雨があると川の勢いがすぐに強くなるようになりました。平成29年の台風では、すでに太陽光発電パネルが設置されている青野ダム近辺や小野の老人ホーム周辺で、暴風雨を受けて破損したパネルが辺りに散乱しました。雨水も氾濫をおこし、長靴を履いて歩くこともままならない状況だったそうです。山も土砂崩れが周辺各地で見られました。このように当該の地域は台風や豪雨の影響を非常に受けやすく、民家地帯の大部分が土砂災害の警戒区域及び特別警戒区域に指定されております。大規模な工事やパネルの配置に耐えられる環境ではありません。</p> <p>事業者による住民説明会では「災害で被害に遭っても保険に加入しているので大丈夫」との一点張りで抽象的な説明に終始し、住民からの質問に対して回答がなされることはありませんでした。しかし民間の保険会社によれば、「もし自然災害に基づいて住民に何らかの損害が生じたとしても、不可抗力ということで補償金は1円も出ない」とのことです。市役所にもこれまで何度も相談を持ち掛けてきましたが、「皆さんの間で解決してほしい」と突っぱねられるばかりです。有事の際は一体誰が責任を取るのでしょうか。一番大きな問題です。</p> <p>再生可能エネルギー発展の意義は承知しております。しかし周辺に住まう市民に直接的な被害を与えかねない状況を見過ごすわけには参りません。どうか事情をお汲み取りいただき、対策を講じていただきますよう懇願する次第です。</p> <p>&lt;陳情事項&gt;</p> <p>BayWa r. e. Japan株式会社主導の三田市小野地区栗田山における事業用太陽光発電施設の建設計画の撤回</p>
付託委員会	生活地域常任委員会